

令和6年度 学校評価表(当初)

a 学校教育目標	夢や目標に向かって、自ら伸びる ともに伸びる児童の育成 (校訓) 自ら伸びる ともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン
----------	--	----------------------

評価計画						
c 中期経営目標	d 短期目標	e 目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目	指標	令和6年2月	目標値
					h 達成値(参考)	
確かな学力 主体的な学びを実現する取組を通じ学力の定着と主体的・対話的で深い学びを追求する	その学年で身に付けるべき学力を確実に定着させる	【授業改善による学力定着】	単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の学年平均値が指標に示す点を超える教科数(20教科) 【評価時期】(1学期末・2学期末)	平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)	15/20教科	20/20教科
		<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な学びにつながる「問い」「学び合い」のある授業づくり【研究部】 45分間の授業で、R80を活用した「振り返り」から逆算した「めあて」を設定した「わかる、できる」授業づくり 学び方の選択肢と自己決定のある授業づくり【研究部】 「聞く」ことを大切に、ねらいを達成するための「学び合い(ペアやグループによる学習)」のある授業づくり【研究部】 教科書の文章を「読む」ことができる授業づくり【研究部】 教材文等のことばに根拠を求める授業づくり【研究部】 学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】【生徒指導部】 ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業づくり【研究部】 実生活や実社会の課題を解決するプロジェクト型学習の充実【教務部】 	<ul style="list-style-type: none"> NRT学力テストの平均値が全国平均以上の教科数(13教科)【評価時期】(7月) 校内図検定(自作テスト)の平均正答率【評価時期】(10月) HyperQU学習環境分析の「学習意欲」【評価時期】(5月 10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均以上の教科数 各学年の平均正答率80%以上 全学年全校平均以上 	5/13教科	13/13教科
豊かな心と親和性の高い集団 安心して学べる学習環境の基盤となる、規範意識の醸成を図るとともに、自他を尊重する心情・態度を育成する	児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー等)を身に付けさせる	【規範意識の育成】	HyperQU「学級生活満足群」 【評価時期】(5月 10月)	学級生活満足群に位置づく児童の割合60%以上の学級数	4/8学級	8/8学級
		<ul style="list-style-type: none"> 「大和小みんなの一日」、学習規律チェック表に基づく積極的な生徒指導を日常的に実施【生徒指導部】 生活や学習の場で自己決定する場の設定【生徒指導部】【研究部】 	全ての児童に学びの場がある。	所属学級、SSR、市ふれあい教室、フリースクール、リモート授業、保健室などの学びの場	—	100%
		【共感的な人間関係づくり】	児童質問紙によるアンケート調査 (あ)「学校のきまりやルールを守って生活をしている」 (い)「自分にはよいところがある」 (う)「自分のよさを周りの人に認められていると思う」 (え)「将来の夢や目標を持っています」 (お)「努力すれば、自分もたいていのことは出来ると思います」 (か)「地域のことが好きです」 (き)「困ったことがあったとき、先生や友だちに相談できる」 【評価時期】(1学期末・2学期末)	児童質問紙肯定的評価の割合	84%	90%
		<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童に、学校内(学校外も含めて)に「学ぶの場」がある取組【生徒指導部】 全ての児童が、困った時に学校の中に相談できる人や場がある取組【生徒指導部】 「聞く」ことや「学び合い」を大切に授業改善【研究部】【生徒指導部】 ねらいをもった児童同士の交流の場がある学級活動【生徒指導部】 	いじめ事案やいじめにつながる事案を把握し、児童と保護者、学級の児童に対応する。	—	100%	
		児童に、他者とかかわり合う場面を与え、その中で、自己肯定感を高めさせるとともに、相手を大切にすると態度を身に付けさせる	児童質問紙よりアンケートによる調査 「体育の授業は楽しい」 「おうちで決めた時刻に寝ている。」 【評価時期】(1学期末・2学期末)	肯定的評価の割合	81%	85%
健やかな体 生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する	児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現しようとする心と体を育成させる	【生涯にわたって健康づくりをしよとする健康教育の充実】 【生涯にわたって運動しようとする心情の育成につながる授業改善】	児童質問紙よりアンケートによる調査 「体育の授業は楽しい」 「おうちで決めた時刻に寝ている。」 【評価時期】(1学期末・2学期末)	肯定的評価の割合	「体育の授業」71%	「体育の授業」95%
		<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムを整える取組の実施(園小中連携教育)【保健安全部】 楽しく、運動量がある体育科の授業改善【保健安全部】 自分の目標に向かって挑戦することができる体育科等の授業改善【保健安全部】 児童同士が「見る」ことを大切に体育科の授業改善【保健安全部】 自己決定の場がある体育科の授業改善【研究部】【保健安全部】 	「早寝」70%	「早寝」80%		
働き方改革 教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、学校行事及び総合的な学習の時間の内容を精選することを通して、児童に向き合う時間を確保するとともに、職員を健康を維持する。		<ul style="list-style-type: none"> 教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、行事等の精選をし、児童に向き合う時間を確保する。 行事等の内容を精選し、行事に係る練習時間数を減少する。 総合的な学習の時間の内容を精選する。 各々が担当する行事を精選する。 関係機関・団体と連携する取組について、学校が担う業務を軽減する。 定時退校を実現する。 見通しを持った業務を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇市の方針「勤務時間上限の目安時間」『上限の目安時間及び特例的な扱い』に記載されている内容を達成する。上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 	勤務時間外の在籍時間 全教職員年間360時間以内、月45時間以内の割合	39%	100%

研究 主体的に学び、自ら伸び ともに伸びようとする児童の育成
～「自己決定の場」と「問いの工夫」がある授業づくり～

連携教育 園・小・中連携教育で伸びる「大和っ子」の育成